

VMAJ ベンダーマネージャー育成プログラム

Microsoft

ライセンス包括的実務ガイド

版	v3.2 (B2 出典注記版)
作成日	2026年6月
作成者・発行者	イタムス株式会社 (ITAMS)
対象読者	Microsoft ベンダーマネージャー・調達担当・SAM 担当・IT 部門
収録章	全13章 (契約体系/サーバー製品/クラウド/M365/Azure/Copilot AI /Dynamics 365/SAM/セキュリティ/デスクトップ)

【注意事項・要確認事項について】

「要確認」と表示された箇所は Microsoft 公式情報で次回レビュー時に再確認が必要です。本資料は Microsoft の docs.microsoft.com・microsoft.com/licensing の一次情報に基づく教育資料ですが、個別契約・Product Terms・見積書が常に最優先です。法的助言ではありません。

はじめに — VMAJ 教育体系における本資料の位置づけ

本資料は、イタムス株式会社（ITAMS）が提供する VMAJ の「ベンダーマネージャー育成プログラム」の一環として、Microsoft のライセンス・契約管理に特化した包括的実務ガイドです。

VMAJ の教育体系では、ベンダーマネジメントの中核を「Demand-to-Contract-to-Service Control（需要・契約・サービス供給のマッチング統制）」として定義しています。Microsoft においては、この統制が特に複雑です。EA/MCA-E/CSP/MPSA の契約選択・SA の継続管理・True-Up 申告・クラウド移行に伴う Hybrid Benefit 活用・M365 と Azure の課金モデルの組み合わせ・Copilot AI 製品の新規展開、これらすべてが相互に連動し、ビジネス部門の需要と契約上の供給可能権利との適合性を継続的に評価し続ける能力がベンダーマネージャーに求められます。

本資料の構成：

- 第 1 章 契約体系（EA/MCA-E/CSP/MPSA/OV/SCE）
- 第 2 章 ハイブリッドサーバー製品（Windows Server 2025 / SQL Server 2022）
- 第 3 章 クラウドアウトソーシング・FVB・License Mobility
- 第 4 章 開発・検証・ホスティング環境（Visual Studio / SPLA）
- 第 5 章 コンプライアンス管理（多重化・Unattended RPA・再イメージング）
- 第 6 章 ガバナンス・コントロールフレームワーク・RACI・成熟度モデル
- 第 7 章 Microsoft 365 ライセンス体系（Business / Enterprise / Frontline）
- 第 8 章 Azure コスト最適化（RI / Savings Plans / AHB / MACC）
- 第 9 章 Copilot・AI 製品ライセンス（M365 Copilot / GitHub Copilot / Azure OpenAI）
- 第 10 章 Dynamics 365・Power Platform ライセンス体系
- 第 11 章 SAM 実務・True-Up 手順・EA 交渉戦略
- 第 12 章 Entra ID / Defender / Purview / Sentinel ライセンス・ESU
- 第 13 章 Windows デスクトップ / VDA / Windows 365 / CAL Suite

第1章 契約体系の全体構造とトランザクション調達

Microsoft が提供するライセンス契約体系は、組織の規模・調達柔軟性・コミットメント期間によって多層化されています。適切な契約を選択することが調達コスト最適化の出発点です。

1.1 主要契約モデルの比較

契約プログラム	契約期間	最低コミット	SA 提供	主な特徴
エンタープライズアグリメント (EA)	3年固定	500 デバイス / ユーザー以上	標準付帯 (強制)	大企業向け。3年全社標準化義務。オンプレ製品に段階割引 (OLS は 2024 年 11 月以降フラット価格)
Microsoft Customer Agreement for Enterprise (MCA-E)	期間なし	なし	別途 MPSA 等が必要	エバーグリーン。期間固定なし。M365/Azure 中心の組織に適合。成長型組織に有効
クラウドソリューションプロバイダー (CSP)	月次/年次/3年	なし	別途 MPSA 等が必要	パートナー経由。月次は年次比約 20% 割高。短期・変動大ワークロードに適合
MPSA (Microsoft Products and Services Agreement)	期間なし	250 ユーザー以上前提	オプション (製品単位)	複数調達アカウントで購入ポイントプール。SA 任意。ハイブリッド調達に有効
Open Value (OV)	3年	5~250 シート未満	標準付帯	小規模組織向け (~250 シート)
Server and Cloud Enrollment (SCE)	3年	対象サーバー 全社カバー	標準付帯	EA の派生。Azure 割引・SQL Server コスト節約。True-Up 監査厳格

△ 2024 年 11 月以降の EA 改定により、OLS (M365 等) のボリューム段階割引 (Level A~D) が廃止されフラット価格に統一されました。M365/Azure 中心の大企業では、EA の「割引」効果が限定的になっています。CSP 年次や MCA-E との比較試算を必ず実施してください。

1.2 契約選択フロー

確認事項	判断軸	推奨契約
------	-----	------

組織規模	500 ユーザー以上	EA または SCE
組織規模	250～500 ユーザー	MPSA または MCA-E
組織規模	5～250 ユーザー	Open Value または CSP
クラウド移行度	オンプレ主体	EA (SA 付きで移行権を確保)
クラウド移行度	クラウド主体	CSP または MCA-E
クラウド移行度	ハイブリッド	MPSA (ポイントプール活用)
SA 要件	仮想化・Azure 移行・ダウングレード権が必要	EA または MPSA+SA

※ VLSC は2024 年4 月廃止。EA 向け永続ライセンスはVL Central、M365/CSP 等はMicrosoft 365 Admin Center で管理。

▶ 実務チェックポイント

- 現行の契約モデル (EA/CSP/MPSA など) と有効期間を台帳管理しているか
- 2024 年 11 月 EA 改定 (OLS フラット価格化) の影響を試算し、更新計画に反映しているか
- SA の期限と EA 更新日のカレンダーを連動させて管理しているか

第2章 ハイブリッドサーバー製品のライセンス方式とハードウェア連携ルール

Windows Server と SQL Server のライセンスは物理コア数に厳密に紐づいており、誤った理解はコンプライアンス監査での最大リスクとなります。

2.1 Windows Server 2025 コアベースライセンス

i コアベースモデルの必須ルール：①プロセッサあたり最低 8 コアをカバー、②物理サーバー全体で最低 16 コアをカバー、③コアパック単位（2 コアパックまたは 16 コアパック）で購入

エディション	参考価格 (NL MSRP)	VM 稼働数	主な用途
Windows Server 2025 Standard	16 コアパック \$1,176	最大 2VM (16 コア カバーご と)	少数 VM の物理サーバー
Windows Server 2025 Datacenter	16 コアパック \$6,771	無制限 VM	多数 VM のハイパーバイザー

[出典] 根拠台帳No.20 [L3] Windows Server pricing page 確認日: 2026-05-28 *参考MSRP (NL)。地域・契約により変動。

※ 損益分岐点: 同一ホスト上で同時稼働する VM が 9 台以上になると Datacenter が経済的。8 台以下は Standard スタッキングの方が安い場合が多い。

* Azure Arc 経由PAYG: Windows Server 2025 Standard/Datacenter \$33.58/コア/月 (オンプレミスでも利用可)。確認日: 2026-05-28

2.2 SQL Server 2022 ライセンスモデル

エディション	参考価格 (NL)	ライセンスモデル	VM 適用要件	仮想コア適用
Enterprise (Per Core)	2 コアパック \$15,123	コアベースのみ	SA 付きで物理 全コアカバー→ 無制限 VM	SA 必須
Standard (Per Core)	2 コアパック \$3,945	コアベース	VM ごとに最小 4 コア	SA/CSP サブス ク必須

Standard (Server+CAL)	サーバー \$989 CAL \$230/人	サーバー +CAL	最大 20 コア制 限	N/A
-----------------------	---------------------------	--------------	----------------	-----

[出典] 根拠台帳[L3] SQL Server pricing page 確認日: 要確認 参照URL: microsoft.com/sql-server/sql-server-2022-comparison

△ SA なし永続ライセンスのみの場合、VM ベースの柔軟なライセンス適用は一切認められません。仮想化環境では SA または CSP サブスクを必ずセットで購入してください。

パッシブ待機系レプリカのライセンス免除条件: アクティブサーバーに SA が付帯している場合、DR 用パッシブ待機系レプリカは 1 系統まで無償。SA 未保有時はレプリカ側にもフルライセンスが必要 (コスト 20~40%増)。

▶ 実務チェックポイント

- 全物理サーバーの CPU コア数・ソケット数を把握し、最小要件 (16 コア/サーバー) を満たしているか
- SQL Server を仮想化環境で使用している場合、SA または CSP サブスクを保有しているか
- パッシブ DR レプリカのライセンス状況を確認し、SA 継続を管理しているか

第3章 クラウドアウトソーシングにおける法的権利と FVB の戦略的活用

クラウドへのアウトソーシング時に自社ライセンス (BYOL) を活用するかどうかは、大きなコスト差を生みます。FVB と License Mobility の違いを正確に理解することが重要です。

3.1 Flexible Virtualization Benefit (FVB)

FVB の重要ポイント	内容
定義	SA またはサブスクリプションを保有するライセンスを、任意のクラウド事業者 (Listed Provider 除く) の共有インフラに展開できる権利
対象事業者	Microsoft 認定の「Authorized Outsourcer (認可アウトソーサー)」
除外事業者	AWS・Azure・Google Cloud などの「Listed Provider (ハイパースケーラー)」
申請手続き	不要 (認可アウトソーサーへの展開は申請なしで BYOL 可能)
対象製品	Windows Server、SQL Server、その他 SA 付き製品

[出典] 根拠台帳 No.11 [L1] Microsoft Licensing Terms - Product Terms (FVB 定義) 確認日: 要確認 参照URL: microsoft.com/licensing/terms

△ FVB は Listed Provider (AWS・Azure・GCP 等) には適用されません。ハイパースケーラーを利用する場合は Azure Hybrid Benefit (AHB) など別の仕組みを活用してください。

3.2 License Mobility vs FVB の法的差異

比較項目	License Mobility (SA 経由)	Flexible Virtualization Benefit (FVB)
前提条件	SA 保有 + Microsoft への申請が必要	SA 保有のみ (申請不要)
対象事業者	認定 License Mobility パートナー (限定リスト)	認可アウトソーサー全般 (Listed Provider 除く)
Listed Provider への適	不可 (AWS・Azure・GCP)	不可

用	は Listed Provider)	
対象製品	SQL Server 等の「移行対象製品」リスト内のみ	より広範な製品に適用可
新旧の関係	旧来の仕組み（2022 年以前から存在）	2022 年 10 月以降の新制度（より柔軟）

3.3 CAL Suite Bridges による移行期の権利補完

CAL Suite Bridges は、Core CAL Suite または ECAL Suite を保有する組織が、M365 へ移行する過程でクラウドサービスの権利を一時的に橋渡しする制度です（最長 3 年）。

保有ライセンス	Bridge 権利の内容	対応する M365 プラン相当
Core CAL Suite + Bridge	Exchange Online / SharePoint Online / Teams の基本利用権	M365 Business Basic 相当
ECAL Suite + Bridge	高度なコンプライアンス・セキュリティ機能の暫定利用権	M365 E3 相当

△ CAL Suite Bridges は M365 への移行が完了するまでの暫定権利です。Bridge 期間内に正式移行を完了させてください。

第4章 開発・検証・ホスティング環境における特殊ライセンス規定

4.1 Visual Studio / MSDN サブスクリプションの境界線

i Visual Studio (旧 MSDN) サブスクリプションは開発・テスト目的に限定。本番稼働環境（顧客データを処理する環境含む）での使用は禁止。CI/CDビルドエージェント等のエフェメラルVMでの自動実行も禁止。

Azure Dev/Test 価格特典：Visual Studio サブスクリプションは Azure Dev/Test サブスクリプションを通じて開発・テスト目的の Azure リソースを最大 55%OFF（標準比）で利用可能。Windows VM のライセンスも無料（Dev/Test 内）。

4.2 SPLA (Services Provider License Agreement) の運用実務

SPLA は、ソフトウェアをサービスとして提供する事業者が月次報告ベースで Microsoft にライセンス料を支払う契約です。

報告モデル	対象	主な注意点
SAL (Subscriber Access License)	エンドユーザーがアクセスするサービス（月間アクセスユーザー数×単価）	ユーザー数の過少報告リスク。定期的な実使用ユーザー数の監査が必要
Per Core	SQL Server 等のエンジン系製品（稼働コア数×単価）	最小 8 コア/プロセッサ要件あり。月次報告期限厳守

△ SPLA の月次報告漏れ・遅延は Microsoft との SPLA 契約違反になります。自社内 IT 部門が外部顧客向けにサービスを提供する場合も SPLA が必要になることがあります。

4.3 Authorized Outsourcer と自己ホストアプリケーション

認可アウトソーサー：顧客の BYOL ライセンスで運用（FVB の利用が可能）。SPLA ホスターとは異なります（ライセンス所有者が顧客か事業者かで分類）。

△ 自社開発アプリが内部で SQL Server を使用している場合、そのアプリにアクセスする全ユーザーに SQL Server CAL が必要です（Multiplexing 規則）。アーキテクチャ設計段階でライセンス要件を確認してください。

第5章 コンプライアンス管理の落とし穴とペナルティリスク

5.1 多重化 (Multiplexing) とアクセス集約の誤用

i Microsoft の規約：「多重化を行っても、実際に恩恵を受けるエンドユーザー数分の CAL は必要」。ミドルウェアや API を介して間接アクセス者の CAL を削減することはできません。

シナリオ	問題のある構成	適正な対応
ERP/CRM 連携	Power Automate で Dynamics→SAP 同期。ERP 閲覧ユーザーは CAL なし	下流 ERP ユーザー全員に Dynamics Team Member / Power Apps Premium を付与
会議室共有 PC	サービスアカウントに M365 E3 を 1 つ割り当て、不特定多数が Office 使用	使用者個人それぞれに同等以上の M365 ライセンスを付与
レポートサーバー	SQL Server レポートを全社員が閲覧。DB への直接接続は 1 本のみ	実際にレポートを閲覧する全員に SQL Server CAL が必要

△ 多重化違反が発覚した場合、過去 3～5 年間に遡って全間接ユーザー分の CAL 追加請求が行われます。

5.2 非対話型 RPA・Unattended Automation のライセンス要件

Unattended ボットが Office アプリ (Excel、Word 等) を自動処理する場合：「Microsoft 365 E3: Unattended License」が必要 (ボット/タスクアカウント単位)。通常の M365 E3 ユーザーライセンスを Unattended 処理に流用することは EULA 違反。

* Office プロセスを無人ライセンスモードで起動:

HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Office\Common\Licensing → キー名: Unattended、タイプ: DWORD、値: 1

5.3 再イメージング権・ステップアップライセンスの適用条件

再イメージング権の必要条件 (すべてを満たすこと)：① VL 契約で展開する OS と同一製品・バージョン・エディション・言語のライセンスを最低 1 個以上購入済み、② VL 専用メディアと VLK を正規に入手、③ 展開先デバイスに適格なベース OS (Windows Pro 等) がプリインストール済み。

△ ベアボーン (OS 未搭載) PC への再イメージング展開は許可されていません。VL 購入実績なしにクローン展開することもライセンス違反です。

ステップアップライセンスの適用前提：元の下位ライセンスに有効な SA が継続していること、同一契約枠内での手続きであること。SA 失効後のステップアップは無効（上位製品の新規フルライセンスが必要）。

5.4 コンプライアンスリスク一覧

リスク領域	誤認しやすいパターン	適正な対応	違反時のペナルティ
多重化	ミドルウェア経由で間接ユーザーの CAL を節約	間接アクセス者全員に適切なライセンスを付与	過去 3～5 年分の遡及 CAL 請求
Unattended RPA	通常 M365 E3 でボットを 24 時間稼働	ボットアカウントに Unattended License を割り当て	縮小機能モード・ライセンス是正勧告
再イメージング	VL 購入なしで OEM PC にクローン展開	VL ライセンス取得後に正規メディアで展開	OEM 保証喪失・ライセンス非準拠ペナルティ
ステップアップ	SA 失効後に差額ライセンスのみ購入	SA アクティブ中に同一契約枠内で手続き	上位製品の新規フルライセンス全額請求

▶ 実務チェックポイント

- 新規システム間の API/ETL 連携設計時に多重化チェックをライセンス担当者と実施しているか
- RPA システムの Unattended/Attended 区分を確認し、適切なライセンスを取得しているか
- 再イメージング展開前に VL ライセンス購入実績とベース OS の存在を確認しているか

第6章 ガバナンス・コントロールフレームワーク

6.1 ライセンス管理 RACI

タスク	IT 部門	調達・購買	法務・コンプライアンス	事業部門	
ライセンス台帳の維持・更新	R	C	I	I	
新規ライセンス購入承認	C	R	C	I	
SAM 監査・棚卸し（四半期）	R	I	A	C	
EA True-Up 申告	R	A	C	I	
アーキテクチャ設計レビュー（多重化チェック）	A	I	C	R	
FVB/SPLA 契約管理	R	A	C	I	

※ R=実施責任 A=説明責任 C=協議 I=情報共有

6.2 ガバナンス会議体

- ライセンス管理委員会：月次開催（IT 部門・調達・法務の代表者）
- EA True-Up 準備会議：True-Up 日程の 90 日前から月次で開催
- アーキテクチャレビュー委員会：新規システム設計時（都度開催）

6.3 組織ライセンス成熟度モデル

Level	ライセンス管理状態	SAM 運用	主な改善アクション
1（反動的）	ライセンス台帳なし・属人管理	SAM 未導入。監査対応は都度	ライセンス台帳の整備。SAM 担当者の任命
2（基礎的）	スプレッドシートで台帳管理	年 1 回の棚卸し	ELP 算出の定期化。調達プロセスへの SA 要件組み込み
3（管理的）	SAM ツール導入。継続的モニタリング	四半期棚卸し。True-Up 準備が体系化	RACI 確立。多重化チェックプロセス導入
4（最適）	AI/自動化でリアル	ISO 19770 準拠の完全	MACC 最適化。Copilot 活用。ベンダー

化)	タイム可視化	SAM ライフサイクル	交渉でのデータ活用
----	--------	-------------	-----------

6.4 年間ライセンスガバナンスカレンダー

時期	ガバナンスイベント	担当	主な実施内容
Q1 (1~3月)	EA True-Up 申告	IT 部門・調達	年次 True-Up。過去 1 年の使用量を申告。増加分の追加購入
Q2 (4~6月)	上期ライセンス棚卸し	IT 部門 (SAM 担当)	ソフトウェアインベントリ集計・ELP 算出・過不足確認
Q3 (7~9月)	EA 更新準備開始 (更新 90 日前)	調達・法務	True-Up 実績分析・EA 継続 vs 乗り換え検討開始
Q4 (10~12月)	EA 交渉・更新	調達・IT 部門・経営	ベンダー交渉。SCE・MACC オプション検討
通年	SAM 継続モニタリング	IT 部門 (SAM 担当)	月次インベントリ更新・異常検知・新規展開時の台帳登録

第7章 Microsoft 365 ライセンス体系

7.1 エンタープライズプラン（ユーザー数無制限）

プラン名	月額参考価格 (年払いNL)	主な特徴
Office 365 E1	\$10/ユーザー	Web/モバイル版 Office のみ。Teams、SharePoint、Exchange Online Plan 1 含む。デスクトップアプリなし。
Microsoft 365 E3	\$36/ユーザー	デスクトップ Office アプリ、Exchange Online Plan 2（無制限）、Entra ID P1、Intune、基本 Purview 情報保護。2026年7月以降 Defender for Office 365 Plan 1 が自動付属。
Microsoft 365 E5	\$57/ユーザー	E3の全機能+高度なセキュリティ・コンプライアンス一式。Defender for Endpoint P2、Defender for Identity、Entra ID P2、Purview Premium、Power BI Pro、Phone System 含む。
Microsoft 365 F1	\$3/ユーザー (2025年12月改定)	現場作業員向け。メールボックスなし、Office Web 閲覧のみ、Teams 会議録音不可。
Microsoft 365 F3	\$10/ユーザー (2025年12月改定)	F1 全機能+Web/モバイル版 Office 編集、メールボックス 2GB、Teams 会議録音、Windows Enterprise 含む。

[出典] 根拠台帳No.1, No.2 [L3] Microsoft 365 Enterprise pricing 確認日: 2026-05-28 *参考MSRP (NL)。契約プログラムにより実勢価格は異なる。

7.2 ビジネスプラン（最大300ユーザー）

プラン名	月額参考価格 (年払い)	主な特徴
Microsoft 365 Business Basic	\$7/ユーザー (2026年7月以降)	Web/モバイルのみ。50GB Exchange Online Plan 1。
Microsoft 365 Business	\$14/ユーザー	デスクトップ Office アプリ（5台まで）付き。

Standard	(2026年7月以降)	50GB Exchange Online。
Microsoft 365 Business Premium	\$22/ユーザー	全 Business 機能 + Defender for Business、Entra ID P1、Intune を含む最高機能プラン。

[出典] 根拠台帳No.19 [L3] M365 Business plans pricing 確認日: 2026-05-28 *2026年7月1日以降Basic \$6→\$7、Standard \$12.50→\$14へ改定(年払い)。

7.3 E3 vs E5 機能比較 (主要セキュリティ差異)

機能名	E3	E5	備考
Defender for Office 365 Plan 1	✓ (2026年7月以降)	✓ (P2)	Safe Links/Attachments 基本機能
Defender for Office 365 Plan 2 (脅威エクスペローラー・自動調査)	✗	✓	E5のみ
Defender for Endpoint Plan 2 (EDR)	✗	✓	E5のみ (E3はP1のみ)
Defender for Identity	✗	✓	E5のみ
Microsoft Entra ID P2 (PIM・ID保護)	✗ (P1のみ)	✓ (P2)	
eDiscovery Premium (ML対応)	✗	✓	
Insider Risk Management	✗	✓	
Power BI Pro	✗	✓	

i M365 E5 Security add-on (\$12/ユーザー/月) : E3ユーザーがセキュリティ機能を強化する最もコスト効率の良い方法。個別購入価格約\$19.70相当の機能が57%割引で取得可能。

* M365 E7 (2026年5月一般提供開始、\$99/ユーザー/月) : E5全機能 + M365 Copilot + Agent 365を統合。E5 + Copilot アドオン個別購入より効率的な場合がある。

7.4 ライセンスの再割り当てと90日ルール

M365のユーザーサブスクリプションライセンスは、前回の割り当てから90日以内の再割り当てが原則禁止。例外：デバイスの恒久的な故障/盗難、ユーザーの雇用終了・契約満了、長期休職中の緊急割り当て。

▶ **実務チェックポイント**

- 現在の契約モデル（EA/CSP 等）が M365 の規模・利用形態に最適か試算したか
- E3 vs E5 のコスト比較に含まれるセキュリティ機能の価値も含めて評価したか
- 90 日ルールを考慮した短期要員・契約社員向けのライセンス計画を策定しているか

第8章 Azure コスト最適化戦略 (RI / Savings Plans / AHB)

8.1 Azure 課金モデルの全体構成

課金モデル	割引率 (従量課金比)	コミットメント期間	柔軟性	最適なユースケース
従量課金 (Pay-As-You-Go)	基準 (割引なし)	なし	最高	スパイク需要、開発・テスト短期環境
Azure Savings Plans	最大 65%削減	1年または3年	高 (サービス横断適用)	変動するワークロード、複数サービス混在
予約インスタンス (Reserved Instances)	最大 72%削減	1年または3年	低 (VM 種別・地域固定)	安定した継続ワークロード

i Savings Plans と Reserved Instances は併用可能。安定したコンピュートベースライン → Reserved Instances、変動するオーバーフロー → Savings Plans が推奨構成。

8.2 Azure Hybrid Benefit (AHB)

[出典] 根拠台帳No.16 [L2] learn.microsoft.com/windows-server/get-started/azure-hybrid-benefit 確認日: 2026-05-28

対象 Azure サービス	AHB 単独削減効果	RI 組み合わせ時	SA 要件
Windows Server on Azure VM	最大 36%	最大 80%	SA 付き WS コアライセンス必要。最小割り当て 8 コア
SQL Server on Azure VMs (IaaS)	最大 30%	最大 85%	SA 付き SQL Server コアライセンス必要
Azure SQL Managed Instance (PaaS)	最大 30%	最大 85%	同上
Azure SQL Database (vCore ベース)	最大 30%	最大 80%	同上 (DTU モデルは不可)

△ Windows Server Standard で AHB を適用した場合、同ライセンスのオンプレと Azure 上での同時稼働は原則禁止（移行目的の場合のみ 180 日間許可）。SA 有効期限切れ時は AHB 権利が即時失効します。

8.3 MACC・Dev/Test 価格

MACC（Microsoft Azure Consumption Commitment）：EA/MCA-E 配下で一定期間内に Azure サービスで一定額を消費することをコミットすることで、追加的な商業優遇を受ける仕組み。2025 年 11 月以降の新規では Copilot 採用・Azure 消費成長等との連動で追加割引が提供される。

Azure Dev/Test 価格：Visual Studio サブスクリイバーは Azure Dev/Test 専用サブスクリプションで標準比 30～60%割引を適用できる。厳格に非本番環境に限定（本番使用は利用規約違反）。

▶ 実務チェックポイント

- Azure RI 購入前に安定ワークロードか変動ワークロードかを分析しているか
- Windows Server / SQL Server で AHB を適用しているか。SA の有効期限を管理しているか
- MACC/Savings Plans の使用状況を四半期ごとにレビューし、コミットメントと実使用を照合しているか

第9章 Copilot・AI製品ライセンス

9.1 Microsoft 365 Copilot

Microsoft 365 Copilot は、Word・Excel・PowerPoint・Outlook・Teams 等の M365 アプリに AI アシスタント機能を統合します。ベースライセンス（M365 E3/E5 等）へのアドオンとしてのみ購入可能で、単独購入は不可。

購入形態	月額参考価格 (2026年5月 時点)	備考
Microsoft 365 Copilot (Business 向け) アドオン	\$18/ユーザー (年払い)	Business Basic/Standard/Premium/Apps for Business 向け。最大 300 ユーザー制限あり
Microsoft 365 Copilot (Enterprise 向け) アドオン	\$30/ユーザー (年払い)	E3/E5/F1/F3 等向けアドオン。ユーザー数制限なし
Microsoft 365 E7 (2026年5月 以降)	\$99/ユーザー	E5 全機能+Copilot+Agent 365 を統合。E5+ Copilot アドオン個別購入より効率的な場合あり

[出典] 根拠台帳No.1, No.2, No.3 [L3] Microsoft 365 Copilot pricing 確認日: 2026-05-28 *Business 向け (\$18) と Enterprise 向け (\$30) は別製品。

9.2 Copilot Studio (旧 Power Virtual Agents)

カスタム AI エージェントを構築・展開できるローコードプラットフォーム。2025年9月以降、課金単位が「メッセージ」から「Copilot Credit」に統一。

ライセンス形態	価格	内容
従量課金 (Pay-as-you-go)	\$0.01/Copilot Credit	事前コミットメント不要。少量利用に経済的
プリペイドサブスクリプション	\$200/月 (25,000 Credits)	月単位でリセット（繰越不可）。テナント全体でプール利用

[出典] 根拠台帳No.14 [L2] Copilot Studio billing and licensing 確認日: 2026-05-28

9.3 GitHub Copilot

プラン	月額参考価格	主な機能差異
GitHub Copilot Business	\$21/ユーザー	コードサジェスト・チャット、月 300 プレミアムリクエスト

	(2026年7月以降)	ト、Copilot code review、組織レベルポリシー管理
GitHub Copilot Enterprise	\$39/ユーザー	Business 全機能+最新 AI モデルへの無制限アクセス、Organization Knowledge (リポジトリ横断検索)、エンタープライズガバナンス

[出典] 根拠台帳No.15 [L2] GitHub Copilot usage and models 確認日: 2026-05-28

* 2026年6月1日以降、GitHub Copilot は従来のリクエストベース課金から使用量ベース課金 (AI Credits) に移行。Enterprise \$39/月分のAI Credits が毎月付与。確認日: 2026-05-28

9.4 Azure OpenAI Service (参考)

モデル	入力トークン単価	出力トークン単価	主な用途
GPT-4o	\$5/1M tokens	\$15/1M tokens	汎用高性能テキスト生成・分析
GPT-4.1	\$2/1M tokens	\$8/1M tokens	コスト効率重視のテキスト処理
o4-mini (推論特化)	\$1.10/1M tokens	\$4.40/1M tokens	数学・科学・コーディング等の推論タスク

第10章 Dynamics 365・Power Platform ライセンス体系

10.1 Dynamics 365 Base + Attach モデル

2019年以降、MicrosoftはBase+Attachモデルに移行。最初の「Baseライセンス」(\$70～\$180/ユーザー/月)を取得後、同一ユーザーへの追加モジュールを「Attachライセンス」(\$20～\$30/ユーザー/月)として低価格で追加できます。

アプリケーション名	フルライセンス (NL)	Attach (NL)	主な対象業務
Dynamics 365 Sales Enterprise	\$105/ユーザー	\$20 (追加)	CRM 営業管理 (SFA)
Dynamics 365 Customer Service Enterprise	\$105/ユーザー	\$20 (追加)	顧客サービス・ケース管理
Dynamics 365 Finance	\$180/ユーザー	\$30 (追加)	財務会計管理 (500名以上向け)
Dynamics 365 Business Central Essentials	\$70/ユーザー	N/A (中小企業向け)	中小企業向けERP (基本)
Dynamics 365 Team Member	\$8/ユーザー (軽量)	N/A	読取・基本入力のみ軽量アクセス

※ 典型的な組織では全ユーザーの20～30%をTeam Memberライセンスに変更することでコストを大幅削減できる(\$105→\$8/人)。

△ 2026年1月15日より、Dynamics 365 Finance・Supply Chain Managementでライセンス強制化が開始。ライセンスが適切に割り当てられていないユーザーはシステムアクセスが制限される。

10.2 Power Apps ライセンス体系

ライセンス形態	月額参考価格	主な制限・機能
Power Apps for M365 (M365 内包)	追加費用なし	標準コネクタのみ。Dataverse・プレミアムコネクタ・カスタムコネクタは不可
Power Apps Premium (Per User)	\$20/ユーザー	無制限アプリ作成・実行。全プレミアムコネクタ。Dataverseフルアクセス。カスタムコネクタ。

i 2026年1月2日以降、Power Apps Per App プラン（\$5/ユーザー/アプリ）の新規顧客向け販売が終了。新規購入はPer User（\$20/月）が標準。

10.3 Power Automate

ライセンス	月額参考価格	RPA 対応	主な内容
Power Automate for M365 (内包)	追加費用なし	×	M365 サービス間のフロー自動化（標準コネクタのみ）
Power Automate Premium (Per User)	\$15/ユーザー	✓（有人RPA）	無制限クラウドフロー。Attended デスクトップフロー（有人RPA）
Power Automate Process (無人RPA ボット)	\$150/ボット	✓（無人RPA）	無人RPA ボット1基分のクラウドフロー・デスクトップフロー実行権
Hosted RPA	\$215/ボット	✓（無人RPA）	Process 全機能+Microsoft 管理の Azure VM 上での実行

10.4 Power BI ライセンス体系

ライセンス形態	月額参考価格	主な特徴・選択基準
Power BI Free	\$0	Power BI Desktop でのレポート作成のみ。他者への共有・公開は不可
Power BI Pro	\$10/ユーザー (NL年払い)	組織内でのレポート共有・公開。データセット最大1GB、1日8回リフレッシュ
Power BI Premium Per User (PPU)	\$20/ユーザー (NL年払い)	Proの全機能+大容量データセット（最大100GB）、1日最大48回リフレッシュ、AI機能
Microsoft Fabric (旧 Power BI Premium 容量)	F64: \$5,257/月～	容量ベース。同容量内のコンテンツ閲覧者はProライセンス不要（閲覧のみ）

※従来のPower BI Premium Per Capacity (P1/P2/P3 SKU) は2024年より新規販売停止。新規調達にはFabric F SKU で行うこと。P1相当品はFabric F64 (\$5,257/月)。

第 11 章 SAM 実務・True-Up 手順・EA 交渉戦略

11.1 ISO 19770-1 SAM ライフサイクル

ISO/IEC 19770-1:2017 に基づく SAM ライフサイクルの 6 段階: ① Specification (仕様)、② Acquisition (取得)、③ Release (リリース)、④ Deployment (展開)、⑤ Operation (運用)、⑥ Retirement (廃棄)。

11.2 ELP (Effective License Position) 計算

ELP は保有ライセンス数と実際の使用数を対比してコンプライアンス状態を客観的に把握する Microsoft 推奨の概念。Over-licensed (コスト最適化機会)、Under-licensed (緊急対応必要)、Compliant (リスクなし) の 3 状態に分類。

ステップ	作業内容	ツール・確認方法
Step 1: デプロイメントデータ収集	MECM・Defender for Endpoint でネットワーク全体のインストール済み SW を特定	MECM Asset Intelligence / Azure Arc 連携
Step 2: エンタイトルメントデータ収集	M365 Admin Center から VL 購入履歴・SA 権利・サブスクリプションを集約	M365 Admin Center (旧 VLSC) / Microsoft License Statement
Step 3: 消費 vs エンタイトルメントのマッピング	デプロイメントデータをエンタイトルメントに対比し、過不足を特定	SAM ツール / スプレッドシート

11.3 EA True-Up プロセス

True-Up は、EA アニバーサリー (更新日) において前年の使用実績と契約済みライセンス数の差分を申告・精算するプロセスです。

△ True-Up は「追加購入」ではなく「申告義務」です。使用実績を超過したライセンスを申告しない場合、監査時に未申告分の遡及請求 (ペナルティ付き) が発生するリスクがあります。

時期	実施内容	責任者
T-120日	ソフトウェア・ハードウェア・サービス利用状況のレビュー開始	IT/SAM 部門
T-90日	リセラー・Microsoft 営業との協議開始、インベントリ取得	調達/IT 部門
T-60日	リセラーが True-Up オーダー案を作成・提示	リセラー
T-30日	最終化された True-Up オーダーを提出	調達部門
Anniversary 日	Microsoft がオーダー処理・ライセンス記録更新	Microsoft

※ 2024 年4月に VLSC が廃止。True-Up 提出は Microsoft 365 Admin Center → Volume Licensing → Help & Support → サポートリクエスト作成で実施。

11.4 EA 交渉戦略

Microsoft の会計年度 (FY) は 7 月 1 日～6 月 30 日。Q4 (4 月～6 月) が年間売上目標達成プレッシャーが最大化するため最も有利な交渉タイミング。

ディスカウント種別	深さ (目安)	概要
Platform Discount (PD)	約 15%	M365・Windows Enterprise・CAL 等、定義プラットフォーム全体展開のコミット
Additional Discount (AD)	1～15%	交渉で獲得する個別ディスカウント (規模・競合状況・戦略的重要性による)
Strategic Commitment	条件次第	Copilot 採用・Azure 成長・E5 移行・Unified Support 等の戦略的コミットメント

[出典] 根拠台帳 No.18 [L1] Product Terms / EA 改定ガイダンス 確認日: 要確認 ※2024 年11月以降、EA の OLS ボリューム段階割引 (Level A～D) は廃止。交渉型割引へ移行。

交渉レバレッジ戦略: ① Google Workspace・AWS・Slack など競合評価を文書化し「競合検討中」を明示、②独立系ライセンシングアドバイザーからベンチマーク情報を取得、③ CIO/調達/SAM/財務/法務の機能横断交渉チームを編成、④ FY Q4 終了前にクローズ。

※ 18ヶ月前から交渉を開始した企業は、6ヶ月前スタートと比較して 15～30% の追加節約を実現するケースがある。

▶ **実務チェックポイント**

- True-Up アニバーサリー日の 120 日前からインベントリ取得を開始しているか
- EA 更新交渉に向けて競合プラットフォームの評価（BATNA の整備）を完了しているか
- セルフ監査（年 1～2 回の定期 ELP 計算）を実施して監査リスクを低減しているか

第12章 Microsoft Entra ID / Defender / Purview / Sentinel ライセンスとESU

12.1 Microsoft Entra ID ライセンス体系

機能	Free	P1	P2	含まれるバンドル
基本ユーザー管理・MFA・SSO（最大10アプリ）	✓	✓	✓	全プラン
条件付きアクセス（Conditional Access）	✗	✓	✓	M365 E3・Business Premium・EMS E3
Application Proxy・SSPR・ハイブリッドAD参加	✗	✓	✓	同上
Identity Protection（リスクベースアクセス）	✗	✗	✓	M365 E5・EMS E5
Privileged Identity Management（PIM）	✗	✗	✓	M365 E5・EMS E5

i Microsoft Entra Suite（2024年7月GA）：Entra ID Governance・Internet Access・Private Access・Verified IDを統合。P1 ベース\$12/月、P2 ベース\$9/月。M365 E7にも含まれる。

12.2 Microsoft Defender 製品群

Defender 製品	M365 E3	M365 E5	E5 Security add-on	スタンドアロン価格
Defender for Endpoint P1	✓	✓ (P2)	✓ (P2)	\$3.00/ユーザー/月
Defender for Endpoint P2	✗	✓	✓	\$5.20/ユーザー/月
Defender for Office 365 P1	✓ (一部)	✓ (P2)	✓ (P2)	\$2.00/ユーザー/月
Defender for Office 365 P2	✗	✓	✓	\$5.00/ユーザー/月
Defender for Identity・Cloud Apps	✗	✓	✓	別途見積

i M365 E5 Security add-on (\$12/ユーザー/月) : 個別購入合計\$19.70 相当の Defender 機能を約 57%割引で取得できる。

12.3 Microsoft Purview

機能	M365 E3	M365 E5	Purview Suite add-on	add-on 価格
Information Protection (基本) ・ DLP ・ Records Management	△/✓	✓	✓	\$12/ユーザー/月
eDiscovery Standard	△ (基本)	✓	✓	同上
eDiscovery Premium (ML 対応)	✗	✓	✓	同上
Insider Risk Management ・ Communication Compliance	✗	✓	✓	同上

* 2025 年 9 月、Business Premium 向けに Defender Suite (\$10/月) ・ Purview Suite (\$10/月) ・ Defender+Purview Suite (\$15/月) が新設。

12.4 Microsoft Sentinel コスト最適化

課金モデル	単価	割引	適合ケース
PAYG (従量課金)	\$4.30/GB (Analytics Logs)	基準	小規模 ・ テスト環境
Commitment Tiers (100GB/日~)	同左の 48%	PAYG 比 52%削減	継続的な大量ログ取り込み
Basic Logs	\$1.12/GB	PAYG 比 75%削減	アーカイブ ・ アドホック調査用ログ

* M365 E5/A5/F5/G5 ユーザー: 最大5MB/ユーザー/日の無料インジェスト枠。例: 1,000 ユーザーの組織 = 5GB/日が無料。

12.5 Extended Security Updates (ESU)

製品	EoGS / EoL 日	ESU 期間	取得方法
Windows Server 2012/2012 R2	2023 年 10 月 10 日	~2026 年 10	Azure Arc 経由無料取得可

		月（最大3年）	
Windows Server 2019	延長サポート中（～2029年1月9日）	ESU 不要（標準サポート期間中）	2029年以降に検討
SQL Server 2012	2022年7月12日	～2025年7月（最大3年）	Azure Arc 経由無料取得可
Windows 10（Version 22H2）	2025年10月14日	～2028年10月（ESU Year 1～3）	有料 VL または Azure Arc

[出典] 根拠台帳No.4, No.5, No.6 [L2] Extended Security Updates overview 確認日: 2026-05-28

△ Windows Server 2025 上の WSUS では、レガシー OS 向け ESU の配信が 2025 年 9 月以降デフォルトでブロックされる予定。Azure Arc + Azure Update Manager 経由への移行を検討してください。

! Azure 内で実行されている VM は ESU が完全無料。Azure Arc にオンボードしたオンプレサーバーは ESU を月額課金で柔軟に適用可能。

第13章 Windows デスクトップ / VDA / Windows 365 / CAL Suite 完全解説

13.1 Windows Enterprise E3 / E5 (サブスクリプション)

機能	Windows Enterprise E3	Windows Enterprise E5	対応する M365 バンドル
Windows Enterprise エディション	✓	✓	M365 E3 (E3 含む)
Entra ID 参加・ハイブリッド AD 参加	✓	✓	M365 E5 (E5 含む)
VDA (仮想デスクトップアクセス) 権	✓	✓	
Defender for Endpoint Plan 2	✗	✓	

※ Windows 10 Version 22H2 (最終版) : 2025 年10 月14 日でセキュリティ更新終了。

13.2 VDA (Virtual Desktop Access) ライセンス

VDA は、Windows クライアントライセンスを保有していないデバイス (シンククライアント・iPad・Android 等) から Windows 仮想デスクトップ (VDI/RDS) にアクセスする際に必要なライセンス。アクセス元クライアントデバイスに適用 (サーバーではない)。VDA サブスクリプション価格: 約 \$100/デバイス/年。

アクセスシナリオ	VDA 要否	根拠
SA 付き Windows Pro デバイスから VDI にアクセス	不要	SA 特典で VDA アクセス権が付与
M365 E3/E5 保有ユーザーが AVD を利用	不要	M365 E3/E5 に Windows サブスクリプション権が含まれる
シンククライアント (Windows 非搭載) から VDI にアクセス	必要	Windows ライセンスを保有していないため
個人所有デバイス (BYOD) から AVD にアクセス	必要 (原則)	SA 特典が付与されていないため

iPad や Android から AVD にアクセス	必要	Windows 以外の OS のため
-----------------------------	----	--------------------

13.3 Windows 365 (クラウド PC) 主要 SKU

プラン	CPU/RAM/Storage	Business 月額	Enterprise 月額	適合ユースケース
Basic	2vCPU/4GB/128GB	\$28	\$31	Web ブラウジング・軽い生産性ツール
Standard	2vCPU/8GB/128GB	\$36	\$41	生産性ツール・基幹業務アプリ (最人気)
Premium	4vCPU/16GB/128GB	\$56	\$66	Visual Studio・Power BI・Dynamics 365

[出典] 根拠台帳[L3] Windows 365 pricing page 確認日: 要確認 ※参考MSRP (NL)。

Windows 365 Frontline (シフト勤務者向け共有クラウド PC) : 1 ライセンスを最大 3 ユーザーで共有。同時接続ユーザー数分のみのライセンス購入で済む。

13.4 AVD vs Windows 365 選択基準

評価軸	Azure Virtual Desktop (AVD)	Windows 365
課金モデル	変動課金 (Azure 従量課金)	固定月額
セットアップ難易度	高 (Azure スキル要)	低 (ウィザード設定)
シフト制勤務向け	△ (手動設定が必要)	◎ (Frontline が最適)
コスト優位性	利用時間が少ない場合 (夜間停止等)	常時利用の場合 (固定費効率的)

13.5 CAL Suite の概要

CAL Suite	主要含有製品	推奨移行先
Core CAL Suite	Windows Server CAL・Exchange Server Standard CAL・SharePoint Server Standard CAL・MECM	M365 Business Basic / E3 への Bridge 経由移行

Enterprise CAL Suite (ECAL)	Core CAL Suite 全機能+ Exchange Enterprise CAL・ Entra ID P1・Intune・高度な SharePoint	M365 E3 / E5 への Bridge 経由移行 (ECAL Suite Bridges 活用)
-----------------------------	---	---

* ECAL Suite から M365 E3 への移行は、オンプレサーバーのライフサイクルと SA の更新タイミングを見極めて計画。E3 移行後は Office Apps が含まれるためトータルコストが有利になるケースが多い。

▶ 実務チェックポイント

- VDA 可否を正しく評価し、シンクライアント・BYOD 環境に適切なライセンスを付与しているか
- Windows 365 と AVD の選択を利用形態・コスト比較に基づいて決定しているか
- CAL Suite 保有組織で M365 移行を検討している場合、CAL Suite Bridges の活用を評価したか

付録 出典注記・要確認事項一覧

一次情報根拠台帳 (v3.2 B2 出典注記版)

No.	文書名	法的区分	参照 URL・確認状況
1-3	Microsoft 365 Copilot pricing (Business/Enterprise/E7)	[L3] 公開情報	microsoft.com/microsoft-365-copilot/pricing 確認日: 2026-05-28
4-6	Extended Security Updates overview / Microsoft Lifecycle pages	[L2] ドキュメント	learn.microsoft.com/windows-server/get-started/extended-security-updates-overview 確認日: 2026-05-28
7-8	Microsoft Licensing Terms - Client Access License Suites	[L1] ライセンス条件	microsoft.com/licensing/product-licensing/client-access-license-suites 確認日: 要確認
9	learn.microsoft.com - manage-volume-licensing	[L2] ドキュメント	learn.microsoft.com/microsoft-365/commerce/licenses/manage-volume-licensing 確認日: 2026-05-28
11-13	Microsoft Licensing Terms - Product Terms (FVB/License Mobility 定義)	[L1] ライセンス条件	microsoft.com/licensing/terms 確認日: 要確認
14	Copilot Studio billing and licensing	[L2] ドキュメント	learn.microsoft.com/microsoft-copilot-studio/billing-licensing 確認日: 2026-05-28
15	GitHub Copilot usage and models	[L2] ドキュメント	learn.microsoft.com/visualstudio/ide/copilot-usage-and-models 確認日: 2026-05-28
16-17	Azure Hybrid Benefit - Windows Server & SQL Server	[L2] ドキュメント	learn.microsoft.com/.../azure-hybrid-benefit 確認日: 2026-05-28
18	Microsoft Licensing Terms / EA 改定ガイダンス	[L1] ライセンス条件	microsoft.com/licensing/terms 確認日: 要確認
19	Microsoft 365 Business plans pricing	[L3] 公開情報	microsoft.com/microsoft-365/business/compare-all-plans 確認日: 2026-05-28
20	Windows Server pricing page	[L3] 公開情報	microsoft.com/windows-server/pricing 確認日: 2026-05-28

21	Windows Server product licensing page	[L3] 公開情報	microsoft.com/licensing/product-licensing/windows-server 確認日: 2026-05-28
----	---------------------------------------	-----------	--

要確認事項（次回レビュー時に一次情報確認が必要）

△以下の箇所は「確認日：要確認」としてフラグが付いています。Microsoft 公式の Product Terms・Lifecycle pages・pricing pages で最新情報を確認してください。

根拠台帳 No.	対象箇所	確認すべき URL
No.7-8	CAL Suite 構成要素 (Teams Standard CAL 等)	microsoft.com/licensing/product-licensing/client-access-license-suites
No.11-13	FVB / License Mobility の Listed Provider 除外条件	microsoft.com/licensing/terms (最新版 Product Terms)
No.18	2024 年 11 月の EA ディスカウント改定詳細	microsoft.com/licensing/terms / EA 改定ガイダンス
—	Windows Server 2019 の ESU 要否 (延長サポート期間中)	learn.microsoft.com/lifecycle/products/windows-server-2019
—	Windows 10 ESU (コンシューマー向け有料提供条件)	support.microsoft.com/windows/windows-10-end-of-support-faq
—	Windows 365 SKU 価格 (最新)	microsoft.com/windows-365/enterprise/compare-plans-pricing

© イタムス株式会社 (ITAMS)

本資料は ITAMS が教育目的で作成したものです。無断転載・再配布を禁じます。

各ベンダーの契約条件・使用許諾条件は予告なく変更されることがあります。

最終判断には各ベンダーの公式一次情報および個別契約を必ず参照してください。